

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成16年11月4日(2004.11.4)

【公表番号】特表2000-502742(P2000-502742A)

【公表日】平成12年3月7日(2000.3.7)

【出願番号】特願平9-524793

【国際特許分類第7版】

C 11 D 3/22

【F I】

C 11 D 3/22

【手続補正書】

【提出日】平成15年12月16日(2003.12.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成15年12月16日

特許庁長官殿

1. 事件の表示

平成09年特許願第524793号



2. 補正をする者

氏名（名称） ヘンケル・コマンディットゲゼルシャフト・アウフ・
アクチエン

3. 代理人

住所 〒540-0001
大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル
青山特許事務所
電話 06-6949-1261 FAX 06-6949-0361

氏名 弁理士 (6214) 青山 茂



4. 補正対象書類名 明細書および請求の範囲

5. 補正対象項目名 明細書および請求の範囲



方
審
佐
監

6. 補正の内容

I. 明細書の補正

(1) 第13頁の表3中、左端の清浄剤を示す欄の最下段にある「V1」を
『C1』に訂正する。

II. 請求の範囲の補正

別紙の通り。

以 上

(別紙)

請求の範囲

1. 界面活性剤、無機ビルダー、酸素を基にした漂白剤、漂白活性化剤および／または酵素を含有する清浄剤であって、ビルダーまたはコビルダー成分として、本来の還元末端に-CH(OH)-CHO 基の代わりに-COOH 基を有し、平均オリゴマー化度 2~20 を有するオリゴサッカリドを含有することを特徴とする清浄剤。
2. 修飾されたオリゴサッカリドの平均オリゴマー化度が 2~10 の範囲であることを特徴とする請求項 1 に記載の清浄剤。
3. アラボン酸単位がオリゴサッカリドの本来の還元末端に存在することを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の清浄剤。
4. 0.5 重量%~10 重量%、より具体的には 2 重量%~7 重量% の酸化修飾されたオリゴサッカリドを含有することを特徴とする請求項 1~3 のいずれかに記載の清浄剤。
5. 60 重量%まで、より具体的には 5 重量%~40 重量% のビルダー、5 重量%~50 重量%、より具体的には 8 重量%~30 重量% の界面活性剤、10 重量%~30 重量%、より具体的には 15 重量%~25 重量% の酸素を基にした漂白剤、5 重量%まで、より具体的には 0.2 重量%~2 重量% の酵素および／または 30 重量%以下、より具体的には 6 重量%~20 重量% の水混和性溶媒を含有することを特徴とする請求項 1~4 のいずれかに記載の清浄剤。
6. 0.1 重量%~20 重量%、より具体的には 0.2 重量%~5 重量% の界面活性剤を含有することを特徴とする請求項 1~4 のいずれかに記載の食器清浄剤。
7. 本来の還元末端に-CH(OH)-CHO 基の代わりに-COOH 基を有し、平均オリゴマー化度 2~20 を有するオリゴサッカリドの、洗濯洗剤中の再付着阻害剤としての使用。
8. 本来の還元末端に-CH(OH)-CHO 基の代わりに-COOH 基を有し、平均オリゴマー化度 2~20 を有するオリゴサッカリドの、織物洗浄用の水含有洗浄液中の再付着阻害剤としての使用。

9. 洗浄液中の酸化修飾されたオリゴサッカリドの濃度が 0.001 重量%～0.05 重量%であることを特徴とする請求項 8 に記載の使用。

10. 本来の還元末端に-CH(OH)-CHO 基の代わりに-COOH 基を有し、平均オリゴマー化度 2～20を有するオリゴサッカリドを再付着阻害剤として使用することを特徴とする、水含有の、より具体的には界面活性剤を含有する液体中で織物を洗浄するための方法。

11. 洗浄液中の酸化修飾されたオリゴサッカリドの濃度が 0.001 重量%～0.05 重量%であることを特徴とする請求項 10 に記載の方法。